

韓国の三寶古刹にみる歴史景観のシーケンス特性に関する研究  
-その1 視点場の物理的变化について-

正会員 ○ 李 尚根 1\* 佐藤誠治 2\*  
同 姫野由香 3\* 小林裕司 4\*  
金 興萬 5\* 李 仁熙 6\*  
李 鎬洙 7\*

歴史景観 シーケンス 三寶古刹

## 1. 研究の背景と目的

本研究は、急激な都市化の脅威から歴史文化財の保存・維持という重要性に基づき、重要歴史空間における歴史景観のシーケンス特性を明らかにする。現地調査および理論的考察・分析を行うことで、人間の連続した視覚的経験から導出可能な一連の物理的視覚変化量に明らかにし、遺跡および環境保存、歴史遺跡景観の維持・改善のための基礎的知覚を得ることを目的としている。韓国では三寶古刹という仏教で最も重要な仏・法・僧を象徴する古刹がある。韓国ではその代表的古刹として海印寺「Haeinsa」、通度寺「Tongdosa」、松廣寺「Songgwangsa」が指定されているが、これらは規模、来訪客数、文化的な価値としても重要な役割を担っていることから本研究の対象として妥当であると判断した。

本研究ではその研究の一つとして韓国の三寶古刹の参道空間に形成されているシーケンス景観の物理的变化に対して考察する。

## 2. 研究の方法

### 2.1 視点場の設定方法

韓国国土地理院の 1/5000 地形図を用い、道路中心線の接線が道路の外部

線と接する点を連結し、その地点から中心線と直交する位置を視点場と設定した。更に、視点場の設定方法は断面図上では、

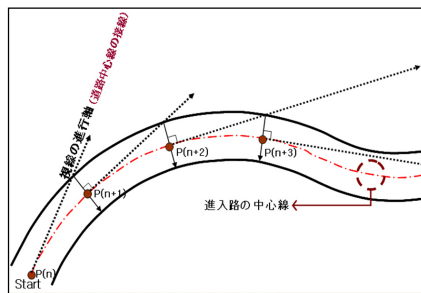


図1 視点場の設定

①平地型 ②可視距離に影響なしレベル差 ③斜面または階段によって可視距離が影響を受けて可視距離が遮られる場合 ④階段によって可視距離が影響を受けて可視距離が遮られる場合の4タイプにした。平面図上では、⑤直線形 ⑥直線の枝形 ⑦曲線形 ⑧曲線の枝形 ⑨折枝形 ⑩階段一体形 ⑪建物密集形の7タイプとし、視点場を抽出した。

### 2.2 イメージの撮影方法

本研究では魚眼レンズセット\*<sup>1)</sup>を使用してイメージデータを作成した。図1の手法で設定した視点場において

180°の魚眼レンズを使用して1視点場ごとに120°ずつ回転撮影をして、各々3枚のイメージを得た。

表1 動線進行による視点場のタイプ

断面	①		建物と建物間ではポイント間の距離中心にポイントがもう一つ発生
	②		軒の勾配線がポイントになる。
	③		可視可能な目の高さでポイントが決定される。
	④		可視可能な目の高さの階段部からポイントが決定される。
平面	⑤		視点場の追加発生が無し
	⑥		結節点に視点場が発生
	⑦		動線軸の変化で視点場の追加発生が多い
	⑧		動線軸の変化で視点場の追加発生が多い 結節点に視点場が発生
	⑨		視線軸の変化が一番大きくて 格結節点に視点場が発生
	⑩		結節点及びレベル差の可視限界で 視点場が発生
	⑪		建物に囲まれた空間。 視点場が多く発生

## 3. 視点場の物理的变化

### 3.1 視点場の標高変化

参道空間における各視点別標高を見ると(図2)、視点HP-01~05とTP-01~03とSP-01~03に付近で一時的に下り坂になる事が分かる。また、海印寺の場合Hp6からは新たに上り坂となる。Hp1とHp63のレベルは88.79mの差があり、レベルの変化が全くない状態で視線角度の変化があるヶ所は18ヶ所である(図2)。標高が最も大きく変化を見せる所はHp25-Hp26である。通度寺はTp4から新たに上り坂となる。Tp1とTp40のレベルは28.41mの差があり、レベルの変化が全くない状態で視線角度の変化があるヶ所は12ヶ所である。標高が最も大きく変化を見せる所はTp04-Tp05である。松廣寺も一時的に下り坂となるが、Sp4から新たに上り坂となる。Sp1とSp47の

レベルは 48.28m の差があり、レベルの変化が全くない状態で視線角度の変化があるヶ所は4ヶ所である。標高が最も大きく変化を見せる所は Sp37-Sp38 である。

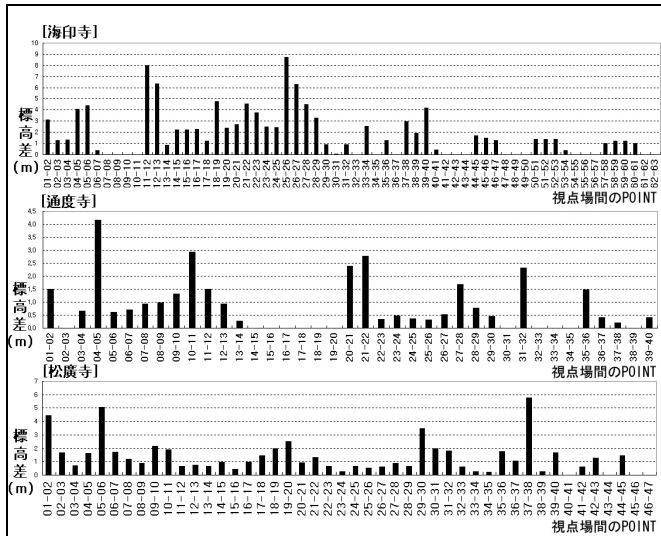


図2 海印寺、通度寺、松廣寺の視点場の標高変化

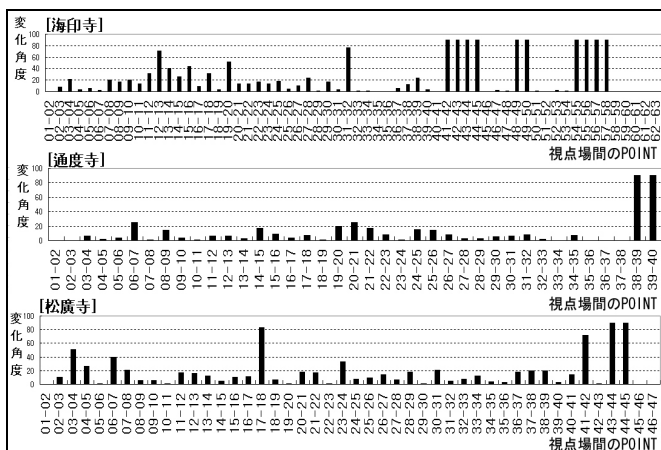


図3 海印寺、通度寺、松廣寺の視点場の動線軸変化

### 3.2 視点場の動線軸変化

本節では調査のため調査進行動線軸の物理的変化について述べる(図3)。海印寺の場合、90° 以上の変化が2つ古刹より多く見られる。古刹の規模により境内動線が長く、境内古刹建物の頻繁な出現等により生じる動線の分散がその原因と考えられる。通度寺の場合、0° ~10° 未満の変化が最も多く、50° ~90° 未満の動線変化は全く見られない。原因は立地形態による動線の屈曲変化及びレベルの差がほぼない緩やかな直線形態の進入路形式である。松廣寺の場合、動線軸の変化が大きい90° 以上の動線軸変化は2ヶ所である。50° ~90° 未満が3ヶ所、

10° ~50° 未満の部分は総20ヶ所として境外の進入路部分で多く表れている。また、動線軸の変化がほぼない0° ~10° 未満の部分は残り総21ヶ所として境外、境内の両方で見られる。

### 4. まとめ

三古刹とも、始めは一時的に下り坂な状態となる。レベルの変化が全くない状態で視線角度の変化がある箇所も、海印寺18ヶ所、通度寺12ヶ所、松廣寺3ヶ所の順序で存在することが分かる。

更に、3つの古刹において、全般的に屈曲形態は地形、立地、寺刹の性格によって異なるが、各視点場の動線進行軸の変化は同一な特性を持つことが分かる。

視覚軸の変化が最も大きい90° 以上の動線軸変化がり、次に50° ~90° 未満の動線軸変化がある。更に、10° ~50° 未満の動線軸変化がおき、変化がほぼない0° ~10° 未満の部分へとつづく。

表5 屈曲形態の特性

分類	出現位置	属性
0° ~10° 未満	全盤部	視覚軸の変化がほぼない。屈曲が緩慢な長い直線型の道路。地形のレベルによる斜面または階段の出現する場合がその原因になる。
10° ~50° 未満	境外	進行路の緩慢な屈曲変化がよく発生する境外に全般的に分布されている変化角度である。
50° ~90° 未満	Node 部分	緩い屈曲変化で他の進行動線路との結合部分。または丘。丘陵地等が出現して動線が急に変化するNode 部分出現する変化角度である。
90° 以上	境内	境内の圍繞空間のような所で次の視点場への進行をする場合。主要建物による動線の遮断または動線の分散によって発生するのが分かる。

通度寺の場合、地形立地条件などによって緩慢な進入動線を持っているから、0° ~90° 未満の進行動線軸変化が現れない。

### 5. 以後の課題

本研究はシーケンス景観における連続したイメージの中の構成要素抽出と、視点の標高差と方向変化を分析した。その2では視覚により占める構成要素の占有率の変化及びその特性に関して、より詳細にシーケンス景観の特性を明らかにする。

<sup>1)</sup> NIKON Coolpix-8800 カメラと魚眼レンズセット

### 参考文献

- 1) A Survey on Tong Do Sa Temple, School of Architecture University of Ulsan, 1980
- 2) A Study on the Location of Hae-in Temple, Lee, Yongwoo, Hanyang University, 1988
- 3) 自然公園内の寺院進入地域の景観管理要素及び方向設定に関する研究、キム ヘジュ、Kongju University, 2003
- 4) 参道空間の分節と空間構成要素の分析(分節点分析・物理量分析)ー参道空間の研究(その1)ー、船越徹、日本建築学会計画系論文集 第384号 1988.2
- 5) 道路から見た山岳のシーケンス景観特性分析ー大分大学校工学研究科、山滝佳子、2001.3

\*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程  
 \*2 大分大学副学長 工博  
 \*3 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 助手・工博  
 \*4 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 講師・工博  
 \*5 大分大学大学院工学研究科博士後期課程  
 \*6 韓国. 釜山大学校 産業建築学科・副教授・工博  
 \*7 韓国. 釜山大学校 産業建築学科・教授・工博

Graduate Student, Master's Course, Graduate School of Eng., Oita Univ.  
 Vice President, Oita Univ., Dr. Eng.  
 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.  
 Assistant Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng.  
 Graduate Student, Doctor's Course, Graduate School of Eng., Oita Univ.  
 Prof, Faculty of Arch. Pusan National University, Dr. of Eng.  
 Prof, Faculty of Arch. Pusan National University, Dr. of Eng.